

第 4 回 S S H 国際交流講演会 「Cultural Exchange」

令和 7 年 5 月 7 日(水)16:00～17:00 に、5 階多目的室 CD で第 1 回 SSH 国際交流講演会が実施され、生徒約 89 名が参加しました。今年度 1 回目の講演会の講師は、イギリス出身であり仙台一高の ALT の教師の William James 氏で、演題は「Cultural exchange」でした。

William James 氏はつい 1 か月前に来日したばかりで、異文化交流の経験が数多くあります。大学では海洋生物学を専門とし研究活動を行っていました。今回の講演会では自身の研究についてわかりやすく説明して下さり、幅広い知識を紹介して下さいました。また、イギリスの教育制度、学校生活、そして食文化や日常生活におけるマナーなどについて、日本との違いを示しながらご講演して下さいました。講義を聴いて生徒の多くは英語学習の必要性に気づいた様子でした。



講演後、ウィリアム先生に質問しました。

～Q&A～

Q. ウィリアム先生にとって日本の好きな場所はどこですか？

A. 京都、東京、大阪など、それぞれに良いところがあり、日本は素晴らしい国だと思います。でも個性あふれる生徒がたくさんいる仙台一高が一番好きです。激しい個性があるからこそ、一高は愛すべき学校だと思います。

Q. 英語によるプレゼンテーションで大切なことは何ですか？

A. 相手の目を見て話をすることです。そしてジェスチャーを交え、表現豊かに話をすることです。

～参加者の感想～

ウィリアム先生が日本に来た理由の一つとして「日本人の礼儀正しさ、他者への敬意」が含まれていた。日本にいたらあたりまえのことでも、世界に出れば素晴らしいことだと評価され、誇らしくなった。しかし、当たり前のことが、悪く評価されるかもしれない、ということ心を掛けた。

(1年)

日本やアメリカで野球が人気でもイギリスであまり人気がないように、国によって人気なスポーツが異なることや、イギリスにはアナグマやアザラシなどユニークな動物がいるということを知りました。また、すべて英語で、自分が今回の講演の内容をほとんど聞き取れなかったことから、自分はまだ英単語や文法、特にリスニングの力が足りないことを再認識することができました。(1年)

ウィリアム先生の講演会ではイギリスと日本の文化がどれほど違うのかということについて知ることができた。歴史や町並みはもちろん、食べ物や学校生活、スポーツまでもが日本と違っており、異文化について学ぶことができた。また、質疑応答の時間には他言語を話す人とのコミュニケーションの仕方や、異文化交流の楽しさなどこれからの英語との向き合い方についても考えることができた。(2年)

イギリスの文化を知ると同時に、イギリスと比較した日本の魅力や特徴を知ることができた。様々な文化があるイギリスに更に興味が増した。英語を学ぶことの利点を実感し、英語の学習に意欲を持った。(2年)

日本とイギリスは、必要以上に謝罪することや、初対面の人と天気の話をするなど、非常に似た文化と国民性を有していると感じた。また、今回の講演会は全て英語で行われたのでリスニング能力を伸ばすことが必要であると感じました。(2年)

《編集後記》

今回のSRtimesをまとめるなかで、ウィリアム先生の故郷であるイギリスについて改めてよく理解することができました。また、日本文化とイギリス文化を対比して考えることで異文化理解を深めることができました。このSRtimesを読むことで、講演会に参加できなかった人たちも異文化や国際交流に興味をもつきっかけになれば良いと思います。



講演後質問する生徒

Experiences of cross cultural exchange

- My Spanish flatmate making a spanish omelette for us all
- Being taught japanese table manners
- My Greek friend teaching me to dance
- My Filipino friend making Sisig for us all
- Learning in Cambodia it rude to to the soles of your feet at someone
- Eating bugs in Cambodia

